

平成21年度

校内研究のまとめ

研究主題

『いきてはたらく言葉の力を育む活動の研究』
～書く活動における伝え合い・学び合いを
活かした指導の工夫を通して～



武雄市立若木小学校

〒843-0151 佐賀県武雄市若木町大字川古 8038 番地

Tel 0954-26-2006

Fax 0954-26-2030

1 研究主題

『いきてはたらく言葉の力を育む活動の研究』

～書く活動における伝え合い・学び合いを活かした指導の工夫を通して～

目指す子ども像

- ◎ 自分の考えたことや思いをいきいきと書こうとする子ども
- 書いたことをもとに、自分の考えや思いを伝えようとする子ども
- 進んで読書に親しむ子ども

2 研究主題の主旨

(1) 主題の意味

・「いきてはたらく言葉の力」とは

いきてはたらく言葉の力とは、生活や学習のなかで考えたことや感じたことを自分の言葉で進んで表現することにより、思考力・判断力・表現力を高め、日常生活に生かせる力ととらえる。

・「書く活動における伝え合い・学び合い」とは

国語「書くこと」の指導領域には、話題設定や取材、構成、記述、推敲、交流がある。個人の「書くこと」における基礎基本の定着とともに、書く活動の様々な場面で、伝え合う場面（交流・言語活動）を工夫していくことで、さらに自分の思いや考えをふくらませ豊かなものにしていくための学び合いの効果をねらうものであるととらえる。

・「書くこと」から「生きてはたらく言葉の力」へ

書くことを通して自分の思いや考えを整理し、互いに伝え合うことを通して、自他の違いに触れ、さらに、それを深めたり広げたりする学びの向上へと発展させていく。

(2) これまでの研究と今年度の研究

平成20年度より『いきてはたらく言葉の力を育む活動の研究』～いきいきと書こうとする子どもの育成～という主題で研究を進めてきた。前年度は、書く活動の日常的指導としてスキルタイムを取り入れたり、国語科の単元構成や1単位時間の学習を創意工夫したりすることにより、自分の考えを持ち、いきいきと書こうとする子どもに近づくことが確認できた。さらに、全国学力状況調査においても、国語科の「書くこと」の領域は高い結果であった。しかし、活用力をみる記述式の問題の正答率は低かった。また、「読むこと」の領域の通過率も平均を下回るという課題が見られた。このように、「書くこと」の基礎基本は定着しているが、情報をもとに思考・判断・表現するという活用での記述に課題を残している。

伝えたい相手や目的を明確にすることによって、子どもたちが意欲的に自分の思いや考えを書く活動に取り組み、伝わったとき達成感を持ち、さらにその自信が次への意欲につながる。今年度は、①『『書くこと』の主に叙述に関わる学習のねらいの焦点化』②「伝え合い学び合う活動」に重点をおいて授業研究を進める。又、スキルタイムなどを使って語彙を広げたり、読書活動の充実を図ったり、言語環境を整えたりして子どもたちが楽しんで言葉の力をつける工夫をしていく。さらに、「読む」「話す」「聞く」活動などを関連させ、他教科などとの関連を視野においた活動の工夫をしていくことで、「いきてはたらく言葉の育成」へとつなげていきたい。

(3)今年度の研究

伝えたい相手や目的を明確にすることによって、子どもたちが意欲的に自分の思いや考えを書く活動に取り組み、伝わったとき達成感を持ち、さらにその自信が次への意欲につながる。今年度は、①『『書くこと』における課題設定・取材・構成・記述の過程での学習のねらいの焦点化』②「作品のよさを伝え合い高め合う活動」に重点をおいて授業研究を進めたい。又、スキルタイムなどを使って語彙を広げたり、

読書活動の充実を図ったり、言語環境を整えたりして子どもたちが楽しんで言葉の力をつける工夫をしていきたい。さらに、「読む」「話す」「聞く」活動などを関連させ、他教科などとの関連を視野においた活動の工夫をしていきたい。

3 研究目標

各教科に書くことを取り入れた学習活動を展開していく事で、相手や目的に応じ、自分の考えをいきいきと書こうとする子どもを育成する。

4 研究仮説

(1) ねらいを焦点化させた授業・指導方法

単元レベル、1 単位時間レベルで、児童の学習意欲を喚起しながら、指導の目的、内容、方法を明確にした学習を展開することがそのまま指導の充実につながるであろう。

(2) 伝え合う授業・支援・児童記録

個の基礎・基本の定着を把握し、指導の効果を確認するとともに、児童相互間でのよさを認め高めあう学習の場を設定することが、さらなる思考・判断・表現力の向上につながるであろう。

(3) スキルタイム・宿題・言語環境・他教科との有機的な関連・読書

日常の言語生活の中に、意図的・計画的に言語活動の場を設定し、系統的に指導していけば、基礎・基本の定着に役立ち、題材の幅も広がり、学ぶ意欲が高まるであろう。

5 研究内容

- (1) 書くことの定着を目指すための単元の指導や一単位時間の学習方法を考える。→ねらいの焦点化
- (2) 身につけた個の書く能力を活用し、互いに深め合う学習の場を設定する。→よさを伝え合う
- (3) 書くことの定着を図り、書くことの活性化をめざすため、日常的指導としての書く活動のあり方を考える。→ スキルタイム・家庭学習・他教科との関連・読書

6 研究方法

- (1) 書くことの能力の定着を目指すための単元の指導や一単位時間の学習方法を考える。

指導の目的、内容、方法を明確にした学習を展開すること→ねらいを焦点化

- ア 目的意識や自己の考え（内容）、活動の方法を持たせる手立てを創意工夫する。
- イ 学習者の層（役割や活動、学習内容、学習方法などの違い）に対応した指導を工夫する。
- ウ 書く活動を活性化させるため、事前・事中・事後の指導を考慮した学習活動を展開する。

- (2) 身につけた個の書く能力を活用し、互いに高め合う学習の場を設定する。

個を生かすとともに、自ら学び、自ら考える学習を展開すること→よさを伝え合う授業

- ア 児童の記録をとり、変容や実態を把握しておく。
- イ ねらいに即して意図的に児童の作品を取り上げ、よさについて話し合う授業を設定する。
- ウ 自分の作品を振り返る観点を明確に持たせる工夫をする。

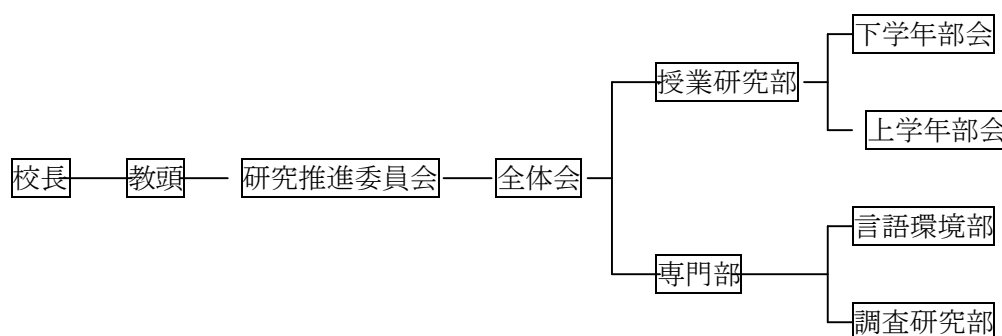
- (3) 書くことの定着を図り、書くことの活性化をめざすため、日常的指導としての書く活動のあり方を

- 考える。 →スキルタイム・家庭学習・他教科との有機的な関連・読書
- ア 全校で朝のスキルタイムに取り組み、T Tで個に応じた支援をする。
- イ 各クラスで、児童の興味関心を考慮した書く家庭学習を計画的に取り組む。
- ウ 他教科での体験・観察・調査などのまとめとして書く活動を機に応じて取り組む。

具体的な取り組みとして

- (ア) 研究の視点に基づいた授業を実施する。(7～12月)
- ・全学年授業実践をする。
 - ・全体授業研究会を上下学年より1回ずつ行う。他の学年はグループ授業研究会を行う。
- (イ) グループ部会、専門部会ごとに部会を開き研究を推進する。
- (ウ) 「校内研究のまとめ」として冊子を作成する。(1～2月)
- (エ) スキルタイムを毎週木曜朝の時間に実施し、語彙広げ・記述・視写などのスキルや短作文に取り組ませる。
- (オ) 研修日について
- ・水曜日 第1・2・4
- (カ) 【研究授業に入る前に】(4～6月)
- ①「生きてはたらく言葉の力」の具体的な捉え方(目指す児童像)共通理解
 - ②児童の実態の把握(学校全体の傾向・学級全体の傾向・学級の抽出児の観察)
～書くこと活動能力表の観点で
 - ③具体的な課題の設定(学年グループの目指す児童像につながる)
 - ④実際の手立て
 - A 国語の授業を通して(研究内容(1)(2))
 - B スキルタイム(研究内容(3))
 - C その他の授業・言語活動などを通して(研究内容(3))
 - D 言語環境(研究内容(3))

7 研究組織



* 言語環境部として①掲示物と、②図書館の活用などの工夫に取り組んではどうか。

研究会	主な活動内容	係
研究推進委員会	・研究テーマの理論づけ ・研究構想作り ・年間研修計画の作成	校長・教頭・教務・研究主任・学年部会部長
全体会	・指導案説明会(全体研事前) ・授業研究会 ・研究推進委員会を受け研究内容についての検討 ・先進校視察の報告会	全職員

授業 研 究 部	下学年部会	・部会での研究内容の設定 ・研究授業指導案の作成と資料の保管	中島・吉永・松尾れ・平川・ 副島・教頭
	上学年部会	・検証授業 ・研究会の司会・記録 ・授業の成果と課題	石戸・川崎・原・今田・松尾 み
専 門 部	言語環境部	・言語に関する環境整備 ・図書館活用の工夫・取り組みの成果と課題	原・中島・副島・平川・松尾 み・
	調査研究部	・理論研究・講師依頼・研究冊子関連の資料収集 ・取り組みの成果と課題・スキル計画	今田・松尾れ・吉永・石戸・ 川崎・教頭

4月 2第1回研推 15第1回全体会	6月 24研修児童の実態 把握	8月 専門部会 スキルプリント作成 講師招聘研修	10月 7校内研② 14校内研③	12月 2校内研⑤ 9校内研⑥	2月 3資料印刷・製本 10研修 24小中連携
5月 13G研 第2回全体会	7月 1校内研① 15NRT考察？	9月 2研修 9研修	11月 4研修 11校内研④ 25研修	1月 13資料作成 27学力状況調査報 告・対策	3月 3研修(アンケート) 10研修 24次年度研究につ いて

校内研は、毎月第①・②・④水曜日15：45～16：30です。簡単掃除にして15：30～にしています。
うか。学力調査の対策を全体会に入れました。小中連携研もあるので回数が少なくなっています。

8 研究全体構想

研究主題 『いきてはたらく言葉の力を育む活動の研究』 ～自分の思いや考えをいきいきと書こうとする子どもの育成～ いきてはたらく言葉の力とは、生活や学習のなかで考えたことや感じたことを自分の言葉で進んで表現することにより、思考力・判断力・表現力を高め、日常生活に生かせる力ととらえる。書くことを通して考えを整理し、さらに互いに伝え合ったり自分を振り返ったり考えを深め広げたりすることへと発展させていきたい。
目指す子ども像 ◎自分の考えたことや思いをいきいきと書こうとする子ども ○書いたことをもとに、自分の考えや思いを伝えようとする子ども ○進んで読書に親しむ子ども
上学年の目指す子ども（相手の意見や考えを取り入れて） ◎自分の感じた事や考えた事を目的に応じて豊かに書こうとする子ども
低学年の目指す子ども（相手や目的に応じて） ◎相手や目的に応じて、自分の考えや思いをいきいきと書く子ども